

令和 6 年度厚生労働厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

職域における HIV 感染症に関する知識の普及啓発の促進に向けた研究

研究分担者 今橋 真弓

名古屋医療センター臨床研究センター感染・免疫研究部 感染症室長

研究分担者 高橋 秀人

帝京平成大学薬学部薬学科 教授

研究要旨

名古屋医療センター専門外来通院中の PLHIV（People Living with HIV）に対し、職域における HIV に関する不適切事例の有無について匿名アンケート調査を行った。回答者は 322 人であった。回答者の 92%が就労していたが、自身の HIV ステータスを職場で公表していたのは回答者の 28.5%であった。職場に HIV や差別に関するポリシーやガイドラインについて知っているとした回答は 18%であり、HIV ステータスに関わらず、ガイドラインの周知が必要であることが示唆された。

A. 研究目的

抗 HIV 治療薬の進歩により、HIV と共に生きる人々（PLHIV）の長期寿命が期待できるようになった結果、PLHIV と HIV の感染リスクにさらされている人々の QOL 改善や差別偏見やスティグマの撤廃が強化されてきている。特に差別偏見やスティグマの撤廃には HIV やエイズに対する最新かつ科学的に正しい知識の普及啓発が不可欠である。

我々は先行研究で、職域では、平成 30 年 3 月の内閣府「HIV 感染症・エイズに関する世論調査（以下内閣府調査）」時と変わらずエイズの知識の普及啓発が進んでいないことを明らかにした。また研究協力機関に対し、郵送検査キットによる HIV スクリーニング検査機会の提供と同時に HIV 感染症・エイズについての講演も行ってきた。

本研究では PLHIV の職場での HIV に関する不適切事例の有無を調査すべくアンケート

調査を行った。

B. 研究方法

2024 年 5 月 1 日～7 月 31 日に専門外来を受診した当科患者にアンケート回答のお願いを呼び掛けた。日本語のみのアンケート作成ではあったが、数人医療通訳を介した回答が行われた。回答は無記名で回答することで研究参加同意とした。インタビュー調査可能な回答者には自身の病院 ID の記入を依頼し、後日、電話で調整を行った。

URL:<https://forms.gle/UPVzkz79MxZ4fvNk9>

また各職場での HIV に対する意識調査として HIV 検査機会が提供された事業所と HIV 検査機会が提供されなかった事業所に対してアンケート調査を行った。アンケート協力事業所は下記の通り。

- ・ ギリアド・サイエンシズ株式会社
- ・ 株式会社 メディカルレビュー社

- ・ ジェイ エイ シー リクルートメント
- ・ 株式会社エム・シー・アイ
- ・ 株式会社メディカルノート
- ・ H.U. ウェルネス株式会社
- ・ アストラゼネカ株式会社
- ・ グラクソ・スミスクライン株式会社
- ・ ヴィーブヘルスケア株式会社

（倫理面への配慮）

名古屋医療センターの倫理審査を受審後行った。（2023-047）

C. 研究結果

1.回答患者属性（表 1）

合計 322 人から回答を得た。年齢の中央値は 49 歳（range:20～74 歳）で、男性 309 人（96.3%）、女性 12 人（3.7%）であった。性指向は 74.9% がゲイ、13.2%がバイセクシャルであった。婚姻状況は過去に 1 度も結婚したがことがない未婚の PLHIV が 77.0%を占めていた。学歴は 37.5%が大卒で最も多く、続いて高卒（31.9%）、専門学校卒（13.4%）と続いた。仕事は会社勤務が 35.1%と最も高く、続いてパートアルバイト（11.2%）、派遣・契約社員（10.9%）と続いた。無職は 5.9%だった。業種は製造業が 20.0%と最も高く、続いて医療・福祉（17.0%）、その他サービス業（11.0%）と続いた。独居が 42.7%と最も多く、続いて自分以外に 1 人（2 人住まい）が 29.9%であった。世帯年収は 200～299 万円が 15.4%と最も多く、300～399 万円（14.7%）、200 万円未満（13.8%）と続いた。HIV 治療を開始して 10 年以上経過している PLHIV が 54.2% にのぼった。

2.HIV と職場について（表 2）

雇用主や上司・同僚に HIV ステータスを公表したことがある PLHIV は 28.5%であった。職場で HIV ステータス（つまり HIV 陽性）に基

づいてネガティブな結果や差別的行動に直面したことは 7.4%が経験していた。HIV ステータスによる昇進やキャリア形成に障壁を感じたことがあるのは 15.3%であった。雇用機会の拒否や職探しに困難を経験したことがあるのは 11.4%であった。HIV ステータスに関する機密の漏洩に直面したことがあるのは 8.7%、適切な配慮やサポートを受けたことがあるのは 11.8%であった。

アンケート内では職域での不適切対応事例経験者に対し、インタビュー調査への協力を呼びかけた。協力申し出者は 136 人に上ったが、そのうち職場で HIV ステータスを公表していたのは 46 人（33.8%）であった。公表していない PLHIV は「公表していないので直接差別は経験していない」「公表はしていないが、特定のセクシュアリティについて揶揄しているのを聞いた」といった事例が寄せられた。令和 6 年度はインタビューは 7 人に対し行った。

D. 考察

当院の定期通院者数がおおよそ 1700 人程度であることを考慮すると、本アンケート調査におおよそ定期通院者の 20%から回答を得た。HIV ステータスを公表している PLHIV が 28.5%と低いことから、公表していないが故に HIV を理由とした職場での不適切な対応を直接経験したことがないことが予想された。職場での HIV および差別に関するポリシーやガイドラインについて知っている PLHIV は 18%と低く、HIV ステータスにかかわらず、ガイドラインが存在することを周知することが必要であると考えられた。

E. 結論

当院定期通院中の PLHIV に対し、アンケート調査を行った。90%以上が就労していて、3 割

弱の PLHIV が自身の HIV ステータスを職場で公表していた。職域における HIV および差別に関するポリシーやガイドラインが制定されていることを啓発していく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
1. Yokomaku Y, Noda T, **Imahashi M**, et al. Antiretroviral therapies and status of people living with HIV in Japan: An update from hospital survey and national database. PloS one 2025; 20(1): e0317655.
2. Iwatani Y, Matsuoka K, Ode H, et al. The unique structure of the highly conserved PPLP region in HIV-1 Vif is critical for the formation of APOBEC3 recognition interfaces. mBio 2025; e0333224.
3. Ode H, Matsuda M, Shigemi U, et al. Population-based nanopore sequencing of the HIV-1 pangenome to identify drug resistance mutations. Sci Rep 2024; 14(1): 12099.
4. Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, et al. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study. J Antimicrob Chemother 2023; 78(12): 2859-68.
5. Otani M, Shiino T, Hachiya A, et al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc 2023; 26(5): e26086.
6. Nakata Y, Ode H, Kubota M, et al. Cellular APOBEC3A deaminase drives mutations in the SARS-CoV-2 genome. Nucleic acids research 2023; 51(2): 783-95.
7. Mizuki K, Ishimaru T, **Imahashi M**, et al.

Workplace factors associated with willingness to undergo human immunodeficiency virus testing during workplace health checkups. Environ Health Prev Med 2023; 28: 52.

8. Masuda M, Ikushima Y, Ishimaru T, **Imahashi M**, **Takahashi H**, Yokomaku Y. [Current Issues of Laws Concerning HIV/AIDS Control in the Workplace]. Sangyo Eiseigaku Zasshi 2023; 65(6): 366-9.

2. 学会発表

1. **今橋真弓**「女性のPLHIVの健康を考える」第38階日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム2 2024年11月28日（東京）
2. **今橋真弓**「HIV流行終結に向けた医療者側の取り組み」第38回日本エイズ学会学術集会・総会 共催シンポジウム1 2024年11月28日（東京）
3. **今橋真弓**「医療現場における多文化共生とは？～文化のカオスで仕事をするということ～」名古屋市立大学SDGセンターシンポジウム 2024年12月23日（名古屋）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表 1：回答患者属性

年齢		業種	
中央値（range）	49(20-74)	公務	13(4.3)
性別		製造業	60(20.0)
男性	309(96.3)	医療・福祉	51(17.0)
女性	12(3.7)	卸売業・小売業	27(9.0)
その他	0(0)	宿泊業・飲食サービス業	17(5.7)
性指向		建設業	16(5.3)
ゲイ	233(74.9)	情報通信業	13(4.3)
ストレート	33(10.6)	運輸業・郵便業	17(5.7)
トランス	4(1.3)	電気・ガス・熱供給・水道業	3(1.0)
バイセクシャル	41(13.2)	金融業・保険業	7(2.3)
婚姻状況		不動産業・物品賃貸業	4(1.3)
現在結婚している。	53(16.5)	教育・学習支援業	14(4.7)
離別、死別	21(6.5)	学術研究・専門・技術サービス	13(4.3)
未婚（過去に結婚したことがない）	247(77.0)	農業・林業・漁業	2(0.67)
最終学歴		鉱業	1(0.3)
中学校	18(5.6)	生活関連サービス業・娯楽業	9(3.0)
高校	102(31.9)	その他サービス業	33(11.0)
専門学校	43(13.4)	自分を除いた同居人数	
短大・高専	14(4.4)	0人（独居）	137(42.7)
大学	120(37.5)	1人	96(29.9)
大学院	23(7.2)	2人	45(14.0)
現在の就労状況		3人	27(8.4)
1. 会社勤務（一般社員）	113(35.1)	4人	11(3.4)
2. 会社勤務（管理職）	29(9.0)	5人	4(1.3)
3. 会社経営（経営者・役員）	7(2.2)	6人以上	1(0.3)
4. 公務員・教職員・非営利団体職員	22(6.8)	世帯年収	
5. 派遣社員・契約社員	35(10.9)	200万円未満	43(13.8)
6. 自営業（商工サービス）	23(7.1)	200～299万円	48(15.4)
7. SOHO	1(0.3)	300～399万円	46(14.7)
8. 農林漁業	1(0.3)	400～499万円	38(12.2)
9. 専門職（弁護士・税理士等・医療関連）	19(5.9)	500～599万円	37(11.9)
10. その他の職業	10(3.1)	600～699万円	29(9.4)
11. パート・アルバイト	36(11.2)	700～799万円	18(5.8)
12. 専業主婦・主夫	4(1.2)	800～899万円	18(5.8)
13. 学生	3(0.9)	900～999万円	7(2.2)
14. 無職	19(5.9)	1000万円以上	28(9.0)

表 2 : HIV 感染症と職場に関する質問

HIV治療年数	
5年未満	59 (18. 4)
10年未満	86 (26. 8)
15年未満	84 (26. 2)
15年以上	90 (28. 0)
未治療	2 (0. 62)
職場での経験について	
1) 雇用主または上司または同僚にあなたのHIVステータスを公表したことがありますか？	
はい	91 (28. 5)
いいえ	228 (71. 5)
2) 雇用主または上司からHIVステータスに基づいてネガティブな結果や差別的な行動に直面したことはありますか？	
はい	23 (7. 4)
いいえ	287 (92. 6)
3) HIVステータスに基づく同僚からのスティグマや差別を経験したことがありますか？	
はい	17 (5. 5)
いいえ	293 (94. 5)
4) HIVステータスによる昇進やキャリア形成に障壁を感じたことはありますか？	
はい	47 (15. 3)
いいえ	261 (84. 7)
5) HIVステータスのために雇用機会が拒否されたり、仕事を見つけるのに困難を経験したことがありますか？	
はい	35 (11. 4)
いいえ	273 (88. 6)
6) 職場のHIVおよび差別に関するポリシーやガイドラインについて知っていますか？	
はい	56 (18. 0)
いいえ	255 (82. 0)
7) 職場でHIVステータスに関する機密の漏洩に直面したことはありますか？	
はい	27 (8. 7)
いいえ	283 (91. 3)
8) 職場からHIVステータスに関して、適切な配慮やサポートを受けたことはありますか？	
はい	36 (11. 8)
いいえ	268 (88. 2)
9) HIVステータスによる職場でのいじめ、嫌がらせ、または口頭での暴言に直面したことはありますか？	
はい	10 (3. 3)
いいえ	297 (96. 7)